

令和2年度年間予定表

Calendar grid for Heisei 24 (2013) showing dates from April to March.

企画展示室 特別展示室 展示解説 企画展担当職員が会期中解説を行います。

4/11(土) 6/7(日)

第108回企画展 「文学と、草木染と—山崎斌(あきら)のこころざし—」



雑誌「月明」(当館蔵)

第108回企画展「文学と、草木染と—山崎斌(あきら)のこころざし—」 4月11日(土)～6月7日(日) 山崎斌の文学者としての活躍と、若山牧水や島崎藤村らとの交流を辿るとともに、「草木染」の命名者としても有名な山崎が生涯をかけて取り組んだ、生活文化に関わる活動を紹介します。後代に受け継がれる草木染の色彩の世界もご堪能ください。

7/11(土) 9/22(火・祝)

第109回企画展 「宮沢賢治展」



資料提供 林風舎

第109回企画展「宮沢賢治展」 7月11日(土)～9月22日(火・祝) 童話「銀河鉄道の夜」や「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」など、数々の作品を生み出した宮沢賢治の生涯と作品を紹介します。賢治自筆の「雨二モマケズ」手帳(期間限定公開)や、親友・保阪嘉内宛書簡も展示します。

10/10(土) 12/20(日)

第110回企画展歌人土屋文明生誕130年 没後30年記念「若き日の土屋文明」展



文明短歌色紙(複製)「この海を左千夫先生よみたまひ一生まねびて到りがたしも」(昭和14年)当館蔵

第110回企画展歌人土屋文明生誕130年 没後30年記念「若き日の土屋文明」展 10月10日(土)～12月20日(日) 土屋文明生誕130年を記念して、文明と伊藤左千夫、島木赤彦、斎藤茂吉との結びつきを作品や資料を通して紹介します。また、短歌界をはじめ、群馬にゆかりのある各界の著名人に土屋文明の秀歌を選んでいただき展示します。

1/16(土) 3/14(日)

第111回企画展 「芥川賞作家—糸山秋子展」(仮称)



糸山秋子氏

第111回企画展「芥川賞作家—糸山秋子展」(仮称) 1月16日(土)～3月14日(日) 2006年「沖で待つ」で芥川賞を受賞。移住した群馬県高崎市を拠点に、作品を発表し続け、2016年には地元を舞台にした『薄情』で谷崎潤一郎賞を受賞した第一線で活躍する作家、糸山秋子の魅力に迫ります。

常設展示室 常設展示「土屋文明—その作品と生涯—」 「三十六歌人」コーナー

文化勲章も受賞した日本を代表する歌人・土屋文明(明治23年(1890)9月18日～平成2年(1990)12月8日)の作品と生涯を紹介し、「テーマ展示」も行っています。常設展示室中央の「三十六歌人」コーナーでは、万葉集以来の短歌史を彩る歌人たちの人形や短歌関係の資料をととして、和歌・短歌の世界に触れることができます。



《土屋文明の伯父 福島周次郎の家スケッチ》 吉田淑 画(シルクスクリーンによる複製)

第1章 榛名山のふもとで育つ—『アカネ』への投稿— 明治23年(1890)～明治42年(1909)

現在の群馬県高崎市保渡田町に生まれ伯母夫妻に預けられて育ち、上郊小学校から旧制高崎中学校に進学。蛇床子の名で短歌を発表し、同校の国漢教師・村上成之(ゆふ)の紹介で伊藤左千夫を頼って明治42年(1909)4月に上京しました。



土屋文明『ふゆくさ』(初版) 古今書院 大正14年(1925)

第2章 東京から長野へ—短歌と小説と教職と— 明治42年(1909)～昭和5年(1930)

上京した年の秋、旧制第一高等学校に入学し、東京帝国大学哲学科進学後は井出説太郎の名で小説も発表しました。島木赤彦の推薦で27歳から33歳まで教育者として長野県の諏訪と松本で過ごし、再上京後に34歳で第一歌集『ふゆくさ』を出版しました。



『アララギ』二十五周年記念号 昭和8年(1933)1月号

第3章 歌壇の中核に—写生、破調、思想的抒情詩— 昭和5年(1930)～昭和20年(1945)

工場や鉄道などの近代的風物を、極端な字余り、破調でありながら緊張感を持った韻律で詠んだ独自の作品が生まれ、第三歌集『山谷集』(1935)に収められて、短歌史に残る重要作となりました。昭和5年(1930)3月には、『アララギ』編集発行人になっています。



土屋文明愛用のキャラバンシューズ

第4章 万葉集研究の継続—自らの足で感じる—

万葉集研究は、古今和歌集を攻撃して万葉集を賞揚した正岡子規の流れを汲む短歌結社「アララギ」に引き継がれる重要テーマであり、文明は戦中から戦後にかけて万葉ゆかりの地をよく歩き、その成果は4,500首以上ある『万葉集』の全歌注釈である『万葉集私注』(全20巻、1949-1956年)に結実しました。



疎開地川戸にて 子山羊を抱く三女・静子らとともに(左から2人目が文明)

第5章 川戸への疎開—敗戦と第二芸術論に抗して— 昭和20年(1945)～昭和26年(1951)

空襲で青山南町(現・東京都港区南青山)の家を焼失した文明は昭和20年(1945)6月、当時の群馬県吉妻郡原町川戸に疎開。敗戦後の虚無感や、俳句・短歌を芸術以下の「第二芸術」と貶める論調に抗し、短歌や言葉の可能性を擁護する力強い作品を生み出しました。



第6章 東京南青山での日々—歌壇の最長老に— 昭和26年(1951)～平成2年(1990)

昭和26年(1951)11月、疎開地川戸から南青山に戻ってきた文明は、昭和28年(1953)に宮中歌会始の選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。その後も作歌はもちろん『アララギ』や新聞の選歌に力を注ぎ、96歳の時には文化勲章を受賞しました。



移築書斎

新居の設計は、弟子の歌人で清方竹の庭 移築書斎の外には、南青山の旧宅から24種43本の木々が当時の配置を参考にしました。書斎は、引戸がついた本棚や、窓ガラス手前にある辞典類を広げるための棚が特徴で、常設展示室内に移築されています。



「三十六歌人」コーナー

展示室中央部を取り囲む柱の中には、中学校・高校の教科書をベースにして当館が開館時に独自に選んだ「三十六歌人」の人形が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介しています。万葉集の歌人から正岡子規など近代以降の歌人までが並びます。その他に、短歌関係の実物資料も展示しています。

## 利用案内

◎開館時間 9:30～17:00(観覧受付は16:30まで)  
 休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)、  
 企画展前後の展示準備・撤収期間(各2～4日)、燻蒸などの臨時休館日

## ◎観覧料

常設展:一般200円、大高生100円  
 企画展:一般410円、大高生200円(夏のみ 一般450円、大高生220円)  
 ※20名以上の団体は2割引。中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名、  
 群馬県民の日(10月28日)に観覧の方は無料。

## 団体利用について

当館職員による解説も可能ですので、事前にご連絡ください。

## 施設案内

### ◎閲覧室

当館所蔵資料についての情報公開をしています。閲覧室に並んでいる一部の書籍  
 以外は閉架となっており、「図書」「雑誌」については、手続きにより直接ご覧になります。  
 「特別資料」(禁閲・禁複製)については、画像データでご覧になれる資料もあります。  
 閲覧資料やコピーサービス(有料)に関する受付時間は9:30～16:30です。

### ◎映像展示室

お好きな映像を選んでご覧いただけます。①万葉集 東歌紀行[約8分] ②土  
 屋文明 ひととなり[約11分] ③短歌の世界 詠み継がれる歌どころ[約11分] ④  
 生命(いのち)の讃歌—山村暮鳥・その詩と生涯—[約24分] ⑤文学の広場—群馬県  
 立土屋文明記念文学館—[約14分] ⑥ぶらり散策—文明と暮鳥—[約13分]。

### ◎絵本のひろば

絵本を中心に子どものための本を1,400冊以上集めたコーナーです。1階ロビーに  
 あり、ゆっくり本を読むことができます。(大型絵本もあります。)

### ◎ミュージアムショップ

企画展図録をはじめ、当館のシンボルマークを型どったオリジナル干菓子(和三盆)  
 「ふみ」、便箋や封筒などの当館オリジナルグッズや文学関係の書籍・グッズを扱って  
 います。通信販売にも対応していますので、当館まで電話でお問い合わせください。

### ◎設備

・エレベーター ・車椅子 ・ベビーカー ・車椅子優先トイレ  
 ・コインロッカー ・オムツ交換台 ・AED

### ◎無線LAN(Wi-Fi)について

当館では、館内の全ての箇所で無料の無線LAN(Wi-Fi)をご利用いただけます。

## 施設利用

研修室など施設の有料貸出も行ってます。詳しくはお問い合わせください。

## 県立文学館ボランティア(2020年2月現在)

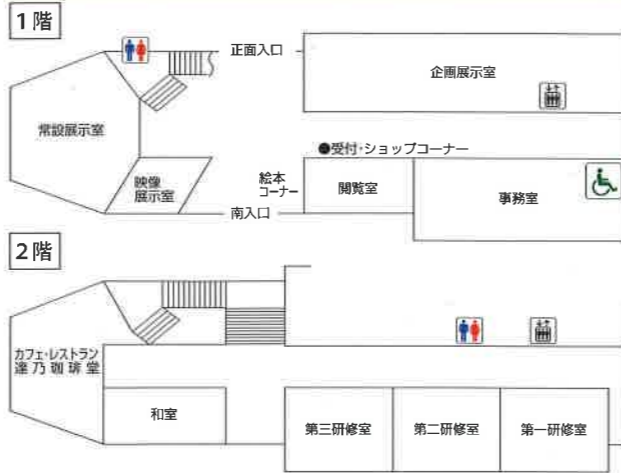
- ①おはなしのへや……………夏休み期間中に行う「なつやすみ おはなしのへや」など  
 の紙芝居の上演、絵本の読み聞かせなど ※
- ②閲覧室……………閲覧室業務の補助(利用案内など) ※
- ③広報……………勤務先や近所などへの当館事業の広報・宣伝 ※
- ④交通整理誘導……………大きなイベントの際の駐車場の整理誘導 ※
- ⑤ミュージアムショップ……………ミュージアムショップの運営など
- ⑥ティーサービス……………和室での抹茶や煎茶のサービス
- ⑦環境美化……………花の提供、清掃など

※は随時募集。募集方法や内容については、電話などでお問い合わせください。

## 茶席体験のご案内(無料)

当館ではボランティアによる抹茶(煎茶)の提供を行っており、どなたでも茶席を  
 体験できます。  
 ○企画展開催中の日曜・祝日(原則)  
 10:00～15:00(12:00～13:00を除く)  
 ○2階和室  
 ※都合により中止または時間変更になる場合があります。

## 館内図



## 交通案内

### ▼自家用車

・関越自動車道前橋ICから15分。  
 前橋ICから北(前橋方面)へ進み、「元総社町東」信号を左折、県道10号前橋安中富岡線  
 を西(安中方面)へ進み、「井出」信号を右折、直進1.2km「県立文学館」信号左折。



### ▼公共交通機関

・JR高崎駅、または、前橋駅が下車駅となります。

#### ◎高崎駅から

○バス:西口バス2番乗り場から群馬バス「しんとう温泉・榛東村役場」行→「保渡田」  
 下車(約20分)、徒歩3分。

※ただし、便数が限られています(開館時間帯 平日2本、土日祝日なし)。

○タクシー:西口から約20分。

#### ◎前橋駅から

○バス:北口バス5番乗り場から関越交通バス「土屋文明記念文学館」行→終点「土屋  
 文明記念文学館」下車(平日、土日祝日も2時間に1本程度)

○タクシー:北口から約25分。

※バスの時刻については、バス会社または当館までお問い合わせください。

群馬バス高崎駅前案内所 tel.027-323-1533

関越交通バス前橋営業所 tel.027-210-5566

## 施設概要・令和2年度事業案内

2020.4～2021.3



## 群馬県立土屋文明記念文学館

Gunma Prefectural Museum of Literature  
 in Commemoration of Bunmei Tsuchiya



当館は平成8年(1996)に開館した群馬ゆかりの文学を中心として扱う県立の文学館です。

## 当館オリジナル「三十六歌人」人形から

### やまのうえのおくら

#### 5 山上憶良

(斉明天皇6年(660)頃～天平5年(733)頃)

### よのなか

世間を憂しとやさしと思へども飛び立ちか  
 ねつ鳥にしあらねば 『万葉集』

「世の中をつらい、身も細るほどに苦しいと思うけれど、(どこかへ)飛んでいくことはできない。鳥ではないのだから。」といった意味です。山上憶良は、『万葉集』の中の「貧窮問答歌」で、律令体制下の貧しい農民たちの姿を伝えています。

### つちやぶんめい

#### 土屋文明が100年前(1920年)に発表した短歌

寒国に來り住みつつ春を待つ心ともしきふゆくさの青

文明30歳の作。初出誌『アララギ』1920(大正9)年4月号では「うつり住みつつ」であった第二句を、第一歌集『ふゆくさ』で「来たり住みつつ」としました。「伊那」八首中第四首。東京から長野県諏訪高等女学校の教頭として転居した寒冷の地、信州で迎えた二度目の冬。寒さに耐え春を待つ中、心ひかれるのは、伊那の谷に萌える青々とした冬草であると春待つ心を感慨深く詠んだ一首です。

群馬県立土屋文明記念文学館  
 〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町2000 上毛野はにわの里公園内  
 tel.027-373-7721 fax.027-373-7725  
 ホームページ: <http://bungaku.pref.gunma.jp/>

※「施設概要・事業案内」の記載内容は変更となる場合があります。



## 教育普及事業案内

詳細や企画展関連イベント等についてはチラシや当館ホームページをご覧ください  
 どうか、直接お問い合わせください。

## 講演会・講座等(要事前申込、無料)

◎記念講演会 企画展に関連して記念講演会を開催します。原則14:00～15:30

◎連続講座等 文学やことばに関する講座等を開催します。原則14:00～15:30  
 【申込方法】 電話・当館受付カウンターで受け付けます。  
 ※往復はがきによる抽選の場合あり

【申込・問合せ先】 〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町2000

群馬県立土屋文明記念文学館 tel.027-373-7721

【受付時間】 8:30～17:15(休館日を除く)

※事前申し込みが定員に達しない場合には、当日受付も行います。

## 歌人が学校に!～選歌と講評から学ぶ～

全国的に活躍する著名な歌人が小中学校・高校・特別支援学校を訪問し、短歌  
 に関する授業を行います。

## 短歌教室～伝統的な言語文化に親しむ～

当館作成の副読本や当館ホームページを活用して、各学校で授業を行っていただ  
 くものです。

## 移動展

当館の展示資料を使用して、市町村施設や学校等の主催で展示を行っていただ  
 くものです。

【貸出可能展示資料】

「方言の豊穡、文学の実感」「詩人 大手拓次 孤独の箱のなかから」「夢みる女性  
 誌」「ぐんま文学の森」「紙芝居」「群馬の詩人」「風の詩人 伊藤信吉」「山村暮鳥  
 真実に生きようとするもの」「いのちのえほん」「童謡のふるさと 石原和三郎の世界」  
 「夭折の詩人」「巖と八重の上州」「文学者の書一筆に込められた思い」  
 ※展示内容により貸出条件があります。お問い合わせください。

## 「なつやすみ おはなしのへや」「なつやすみミニシアター」などの紙芝居や絵本等に関するイベント(申込不要、無料)

夏休みにあわせ、ボランティアによる紙芝居の上演や絵本の読み聞かせを2階の研修  
 室または和室で行います。1階映像展示室ではアニメの上映などを行います。保育園や幼  
 稚園などの団体利用も可能です。お問い合わせください。

第7回「県立文学館紙芝居フェスティバル」(8月頃)・「大人のための紙芝居」(12月頃)  
 を開催予定です。

## 学校等による利用について

できる限り学校のご要望にお応えしますので、授業等でぜひ当館をご利用くださ  
 い。県内の学校は観覧無料です。  
 ※学校団体は2階研修室で食事可。要事前予約。

## 自主学習会(要年会費)

文学に親しむための自主学習会を、各会年間10回程度、当館2階の研修室で開  
 催しています。毎年12月～1月頃に翌年度の募集を行います。

短歌 講師:田村元氏(歌人・「りとむ」「太郎と花子」所属)

俳句 講師:鈴木章和氏(俳人・NHK学園俳句専任講師・「翡翠」主宰)

詩 講師:関口将夫氏(詩人・画家)

絵手紙 講師:福田登美恵氏(日本絵手紙協会公認講師)

古典学習会 講師:吉永哲郎氏(源氏物語を読む「蘇芳の会」主宰)

※自主学習会は、各会の会員相互の協力による自主的な運営で行われます。

## カフェ・レストラン 達乃珈琲堂

世界各国の厳選したスペシャルティコーヒーやパスタ、カレー  
 ライス、オムライスなどの食事をお楽しみいただけます。

tel.027-335-6530

営業時間8:30～18:00 定休日 原則火曜日